

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている				
	やや良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子		・最近は天候に恵まれ、気温も高いので、全体的に人の動きが良く、客数も増えている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子		・昨年と同様に暑さが続き、夏物商材を扱う部署が軒並み好成績を上げている。ただし気候的な要因が大きく、全体的にはまだまだ慎重な様子が見える。また今年のお盆の期間中は集客が全くなく、ここにも消費動向の変化が感じられる。
		スーパー（店長）	販売量の動き		・北海道全体の売上は前年比97%と全国平均値の99%と比較すると2%の遅れを取っているものの、新規競合店が発生した地区を除いた札幌市内の店舗の売上は前年比99%と回復基調にある。旧盆までは盛り上がりが見えたが、旧盆商戦及び直近の売上は前年を超過する勢いとなっている。衣料品が前年比102%と善戦しているほか、住居用品が前年比97%、食品が前年比97%となっている。テナント入居している専門店も前年比94%と前月の80%台から上昇基調となる。
		スーパー（企画担当）	単価の動き		・昨年までは単価が前年比を5%程度下回っていたが、最近は2~3%程度の低下に収まっている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き		・天候が良かったこともあり、お盆期間中の売上が増加した。この時期になって公共工事が動き始めている地区もあり、工事需要も以前と比べると増加傾向にある。
		一般レストラン（スタッフ）	単価の動き		・今月は近くに競合店がオープンしたため、来客数、売上ともに若干減少したが、客単価が順調に回復しており、前年同月の103%となった。
		観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き		・外国人客が相変わらず好調で個人客、ツアー客の減少を十分に補っている。ただし宿泊単価は若干低めとならざるを得ず、売上高は微増にとどまっている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き		・8月上旬は宿泊申込が停滞したが、中旬以降は昨年よりも大幅に伸びており、道内旅行者数が回復している。海外旅行も10月以降の申込みが好調であり、前年を上回るようになってきた。
	美容室（経営者）	お客様の様子		・客の会話の内容をみると、以前よりも外食や旅行の話が多くなってきており、活気が感じられる。	
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子		・総体的にみると、3か月前との変化はない。例年はないほど夏日が続き、居酒屋ではビールが急伸びしたが客単価、来店数は変わらなかった。若者向けの軽衣料を扱っている店では、暑いために客が海などのアウトドアで行動したことから、来店頻度が落ちており、前年と変わらない状態であった。
		商店街（代表者）	単価の動き		・中心部で夏祭りイベントが数多く開催され、人出が多かったものの、期待したほど客数が増えなかった。また客単価も低く、相変わらず低価格志向が続いている。
		商店街（代表者）	お客様の様子		・好天の日が続き、季節商材の売上は昨年より上昇したが、依然として必要な商品のみ購入する慎重な態度が続いている。
		商店街（代表者）	来客数の動き		・例年8月は閑散期なのだが、高温が続いたため、客足が中旬まで途絶えず夏物商材の販売量が増えた。逆に下旬は、来客数自体は増えているが、秋物商材の動きはまだみられず、1か月を通してみるとプラスマイナスゼロであった。ただ前年と比べると客数がかかり増えていた。
		商店街（代表者）	販売量の動き		・3か月前と比べて販売量の変化はそれほどみられない。
一般小売店【酒】（経営者）		単価の動き		・販売量についてはまずまずの動きをしているが、商品単価が下落傾向にあるので、なかなか売上増加に結びつかない。	
百貨店（売場主任）		販売量の動き		・夏物商材の売り尽くしということで、最終プライスでのセールを展開しているが、販売量、買上金額とも前年を下回っている。	

百貨店（役員）	お客様の様子	・中旬を過ぎても夏日が続いているものの、夏物商材の見切り品が売れず、秋物商材の立ち上がりも遅れている。客の季節商材に対する反応が無くなってきている。
スーパー（店長）	単価の動き	・今月は特に客数が前年比107%と大きく伸びているが、客単価はここ数年落ち続けている。猛暑の影響で衣料品を中心に売上は伸びているが、食料品の単価ダウンが顕著に現れている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・販売量をみると、8月は前年比98%と久しぶりに前年を下回った。特にお盆を過ぎてから消費が鈍くなってきている。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・買上点数は大きく変化していないものの、一品当たりの単価が下がっている。客が価格に対して非常に敏感になっている傾向が現在も続いている。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・前年の猛暑の反動も影響しているのだろうが、買上単価が回復してこない。
コンビニ（店長）	お客様の様子	・先日、20代半ばの男性会員の2人組が、弁当コーナーを30秒程度見た後、店員に安売り弁当チェーン店の場所を聞いていた。どこでも価格帯が変わらない場合はコンビニで買うが、少しでも安い商品があれば、激安店や100円ショップなどを利用して、30円でも50円でも節約して買おうという動きがみられる。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・最近では客数が減り、客単価の低下も目立ってきている。
家電量販店（地区統括部長）	単価の動き	・北海道全体での平均客単価は、ここ3か月、1万2千円前後で変わらないままである。
その他専門店 【医薬品】（経営者）	お客様の様子	・相変わらずイベント日以外は、来客数が激減している。来店者に粗品を贈るような場合に、そのプレゼントに反応して集まってくる傾向が強くなっている。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・知床の世界自然遺産への登録を受け、観光客の動きを多少期待したが、前年並みがやっとという感じであった。また9月の衆議院選挙の影響もあってか地元客の足も鈍った。
高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・観光シーズンのピーク時期の中で、今年は客が特定の週に集中しないでばらけている。極端な一時間以上の待ち時間もない。その影響もあってか、客単価は前年比で10%減少しており、客数とともに厳しい状況である。
高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・ランチでは暑かった上旬にカレーライスが売れ、下旬にビジネスマンが減少したものの、前年の売上を超えた。ただし高校野球の準決勝以降が行われた週末はがらがらだった。夕食では上旬に本州からの観光客のコース料理が多く出たが、中旬からは衆議院選挙の影響なのか道内客、道外客とも減少して売上は前年並みとなった。夕食は個人客が多く、道内企業の会食などは減る一方である。
スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数は昨年や一昨年とほとんど変わらず、景気が良いのか悪いのか見当がつかない。
スナック（経営者）	来客数の動き	・8月はお盆休みなどの長期休暇があったが、地元業者には単身者が多いことから、お盆期間中は帰省などで暇な日が続いた。
旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・秋以降の申込みの状況や来客数の増加でやや良くなっているようにも思えるが、販売額で考えると決して上向きではない。
旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・愛知万博や知床の世界自然遺産への登録など、イベント的なものはあるが、限定的な需要にとどまっているように感じている。ビジネスマンの出張数も変わらず、ますます単価ダウンの傾向が強まっている。
タクシー運転手	お客様の様子	・やむを得ない場合を除いて、依然としてタクシーの乗控えが感じられる。
タクシー運転手	お客様の様子	・タクシー利用時の客単価が上がっていない。特に長距離や観光での使用が減っている。
美容室（経営者）	単価の動き	・相変わらず客の動きが全くなく、客単価も変わらない。
住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・モデルハウス等の来場者が相変わらず少ないまま推移している。

やや悪くなっている	スーパー（店長）	単価の動き	・客の買上点数は変わらないが、他店との競争が厳しいことから、商品単価が5%ほど低下している。
	スーパー（企画担当）	単価の動き	・野菜の相場安、米の単価下落、第三のビールの消費者への浸透などから、販売価格の低下が一層進行している。販売点数が伸び悩む中、売上の推移も厳しい状況が続いている。
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・販売量が落ち込んでいる。商品単価や客数は前年、3か月前と比べてもあまり変わりはない状況であるが、気温がなかなか下がらないこともあり、客の買上点数が低下している。
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・エアコンの売行きが思ったほどでもなかった。DVDレコーダーの販売台数も伸びない。
	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・販売実績が大幅に減少している。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	単価の動き	・原油価格の高騰による石油製品価格の上昇が続いており、家計及び会社の経費を圧迫している。量を調整して購買する傾向が強くなっている。
	観光型ホテル（経営者）	販売量の動き	・天候には恵まれているが、夏休みシーズンにもかかわらず道外客の動きが芳しくない。観光バスを利用する大口団体が影を潜める一方で、レンタカーによるファミリー層が増加しており、旅行人員数が減少している。宿泊単価も低下しており、また館内消費も控え気味で、トリプルパンチを食らっている。愛知万博も影響している。知床プームは現地だけであり、当地への波及効果は少ない。
	タクシー運転手	販売量の動き	・8月は夏休みやお盆、夏祭りなど、たくさんの行事があり、一年のうちでも比較的用户が多い時期だが、今年の8月は例年に比べると利用客が大幅に減っている状況である。
	観光名所（役員）	販売量の動き	・ロープウェイの利用客は前年比で減少傾向が続いている。
悪くなっている	-	-	-
企業動向関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	家具製造業（経営者） 金融業（企画担当）	受注量や販売量の動き それ以外
変わらない	輸送業（経営者）	競争相手の様子	・運輸、輸送関係は原油高の影響で価格競争が激しくなっている状況である。
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前との比較では販売に関わる各種の数字が変わらず推移していることから、良い意味での平行線である。
	その他サービス業〔システムハウス〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・中国の単価を引き合いに出され値引きを迫られるなど、受注条件が一向に改善されない。ただし量的には以前よりも改善されている。
	その他非製造業〔機械卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・普通鋼の鋼材消費の80%近くを占める建築土木工事は、下期に向かい停滞感が強まってきている。金属製造業向けの生産財需要並びに加工機器の新規購入は減少傾向にあり、業界の景気動向が良い方向へ転換する兆しはみえない。
やや悪くなっている	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・道内への鋼材、木材等の入荷が思ったより早く頭打ち状態になってきている。またコンテナ船の便数が減少したことにより、コンテナでの輸入貨物の入荷数量も前年を下回るようになってきた。
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・原油の高騰により、紙パルプメーカーでは原材料コストが高騰し、代替品やロットの調整等を行っており、取扱量が不安定になっている。

		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	受注量や販売量の動き	・成約の有無にかかわらず、商談自体が減少している。
	悪くなっている	-	-	-
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・新規拠点の開設や新工場の稼働など、新規事業展開に向けて、人材派遣でのオーダーではあるが、需要が増えているようである。ただし、この派遣需要が正社員の採用ニーズに変わらなければ、必ずしも景気が上向きとはいえない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・前年と比べると、小売業及び飲食店の求人はおおむね好調である。請負業や派遣業などの間接雇用系の業種も依然として好調である。一方で建設業の求人はほぼ前年並みである。求人の総件数は、18か月連続で前年比を上回っている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・総体的に求人数が増加傾向にあり、就業地が地元の求人についても増加してきている。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・8月に入っても求人件数は増えている。また学生は複数の会社から採用内定の通知があり、慎重に会社選びをしている。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人件数にはあまり大きな変化がみられない。ただ、派遣や請負の求人数の増加がみられる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人件数としては微増の傾向ではあるが、求人活動をできるかできないかの企業格差が若干感じられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は7か月連続で前年比を上回っている。このうち約3分の1がパート求人であるが、パート求人の就職数、充足数はともに減少している。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年比で10.8%の減少となり、3か月連続で前年を下回っている。パート求人も6か月ぶりに前年を下回った。
悪くなっている	-	-	-	